

高木大臣ぶら下がり会見会見録（岩手県訪問）
（平成28年1月30日（土）16:23～16:32 於）岩手復興局）

1. 発言要旨

本日は、平泉町、盛岡市を訪問し、地域観光資源を活用した観光促進の取り組みや伝統的な工芸品の海外展開の状況等のお話を伺いました。観光についての意見交換もさせていただきました。

改めて、今後、東北を活性化させていくには、産業、なりわい、そして観光といった要素が非常に重要であると感じた次第でございます。

また、平泉町長、あるいは岩手県の観光に携わっている方とお会いし意見交換をさせていただきましたけれども、平泉町長からは、北海道新幹線や仙台空港を活用して、函館から平泉へのルート開拓や、平泉と仙台をセットにしたセールスなど広域的な視点で観光を促進したいということ、また、意見交換会では震災学習と歴史文化学習を組み合わせた教育旅行や企業研修を進めたいこと、平泉など世界遺産と三陸沿岸部を結び付ける県内周遊を進めるため、高速道路整備を踏まえたバスツアーの充実、花巻空港の活用など広域観光を図ること、訪日外国人を取り込むための外国人目線に立った広域的なプロモーションやWi-Fi整備など多元化が必要であること、三陸地方では交流人口の拡大を図るため、観光列車化や教育旅行ガイド、地域産品の販売促進に力を入れていること、また、被災地の課題を題材としてワークショップを取り入れた教育人材育成プログラムを企画運営し、テーマを絞った形での観光客の誘致も行っていることなどをお聞かせいただきました。

また、岩鑄さんにも訪問させていただきましたけれども、伝統的な南部鉄瓶を欧米の好みに合わせ人気を博するなど、変化に挑戦していることというお話がございまして、私からは、今年を東北観光復興元年として、復興庁でも観光復興関係の来年度の予算を大幅に増額し、更に有識者の東北観光アドバイザー会議を設置して、力を入れていくこと。本日のように被災地のいろいろな、これは意見交換のほうですね、本日のように被災地のいろいろな立場の方から、お話を聞くことが有意義であることなどをお話しさせていただきました。

今後も被災地に寄り添いながら、現場主義に徹しまして、きめ細やかな対応を行い、観光復興のような新しい課題への対応も含めて、被災地復興の更なる加速化に向け、全力で取り組んでいきたいと、そのように感じた次第でございます。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今日は、大臣、ここの意見交換の中で冒頭の挨拶の中で、インバウンド観光、1,900万人に去年達したと。そういう中で、今回、観光客をどう東北にというお話をされていました。

今日の意見交換の中で、そこについて具体的にこういった取り組みができるのですとか、こうしたことをしてほしいみたいな要望などがありましたか。

(答) 今日は、それぞれのお立場の方から東北の観光についてお話をお聞かせをいただいたわけでありましてけれども、その中で、それぞれがお考えになっていることがよくわかりました。

それについて、さまざまな形で復興庁として、あるいはまた国として支援をしていただきたいというような話をいただいたところでございます。

一つ一つ具体的にということとはございませんでしたけれども、そんなようなお話だったかというふうに思います。

(問) 何か復興庁として、今日聞いたお話を受けて、例えばこういう支援ができるのですとか、大臣としてこういう支援ができるんじゃないかと思われたことはありますか。

(答) 一つ一つ具体的というよりも、さまざまな形、さまざまな考え、あるいはいろいろなアイデアがあるなということをお伺いさせていただきましたので、それにまさにどのような形で支援をさせていただくか、これから具体化していくということかというふうに思います。

(問) 先ほど、冒頭、東北観光復興元年ということで力を入れていきたいということでしたけれども、とりわけ、やはり、被災県全体もさることながら、やはり沿岸、被災地の直接的に観光客をどう誘致するかというところが、やはり復興に弾みをつけるという意味では重要だと思います。

市町村、あるいは県も復興庁の力強い支援を期待しているところだと思いますけれども、今日のヒアリングなども踏まえて、これからどのように支援していきたいかということ。

(答) 正直申上げて、例えばインバウンドをとってみても、いきなり被災地、いわゆる沿岸部だけというわけにはなかなかいかないのではないかなと、正直なところ思います。

ですから、例えば東北全体を捉えて、その中でぜひ、いわゆる復興支援道路の整備などもありますけれども、そういったことも充実させていきながら、少しでもこの被災地のほうに行っていく、そんなようなことかというふうに思います。

なかなか、冒頭言いましたけれども、そこだけ、復興の姿を見て

くれだけでは、なかなか難しいんだろうと思います。まずは東北全体で考えて、そして被災地のほうにも行っていただくと、そういう視点かなというふうに思います。

(問) 最初の質問に関連してなんですけれども、改めて、インバウンド観光を、東北6県ですけれども、に誘致していくに向けての大臣の考えですとか、意気込みを教えてください。

(答) そうですね、正しい情報発信というものの必要なんだろうというふうに思います。やはり風評という問題も、これ、ありますから、そういうことはないということを発信すること。

それから、本当に全世界の方々に御支援をいただきながら、復興を進めてきたわけですけれども、その復興が進みつつある、あるいは進んだというところもやはり見ていただく。そして多くの方が来ていただくことによって、東北の皆さんが元気になる。そして東北の人も来ていただいた方に何かをしてあげたいという気持ちがあると思うんです。これまでは御支援いただくばかりだったんですけれども、これから東北に多くの人に来ていただければ、その人たちに東北の人が何かをお返しするというような、そういうことによって東北の方もさらに誇りを持って、復興も進めていただけると思いますし、そうしたことが東北の元気につながるというふうに思いますので、ぜひ多くの方に東北に来ていただくように、復興庁を挙げて、政府を挙げて取り組んでいきたいということだと思います。

観光で東北を元気にしたいということでございます。

(問) 震災復興で、地方経済の活性化というのは密接な関係にあると思いますけれども、そういう中で、先ごろ、内閣の経済の司令塔である甘利大臣の辞任ということがありました。

被災地の間では、経済政策、あるいは復興にブレーキがかかるんじゃないかという懸念もあるかと思いますが、そのあたり、どのように。

(答) いや、そういった心配はないと、要らないというふうに思います。

まさに、甘利さん、非常に大きな存在でありましたけれども、おやめになられましたけれども、石原さん、あと、しっかりと重責を果たしていただけたと思いますし、何よりも内閣一丸となって、経済政策にしても、あるいは復興にしても取り組んでいくということは変わりませんし、更に充実して、一丸となってやっていくという意識は内閣で共有しておりますので、経済政策においても復興の加速化においても決して劣るということはないというふうに申し上げたいと思います。私ももちろん、これまで同様、あるいはこれまで以上に復興に向けて頑張らせていただきたいというふう

に思っております。

(以 上)